

高校生 松本から平和発信



今年の活動方針を話し合う高校生ら

池田出身の特攻隊員・上原良司テーマ シンポジウムや戦跡巡り 計画

松本地域の高校教員や松本市内の高校の生徒らでつくる「わたつみのこえ80年の会」が戦後80年の今年、太平洋戦争中に特攻で戦死した池田町出身の上原良司（1922〜45年）をテーマに平和を考える行事を催す。夏にかけて戦争遺跡を巡る学習や、上原に関するシンポジウムを計画。8日は松本深志高、松本県ヶ丘高、松本第一高の生徒計8人と教員6人が市内で集まり、今年の活動を話し合った。

戦後60年、70年にも有志の教員らが集会などを企画し、今回は2年ほど前から準備。教員約10人と有志の生徒約10人が参加

1945→2025

戦後
80年

し、高校生の意見を生かして具体的な活動を考えていく。

6月に松本地域の戦跡巡りをし、8月9日に上原の生家を見学する。同23日には「わたつみのこえ戦後80年のつどい」と題し、太平洋戦争の戦跡の撮影を続ける写真家安島太佳由さんの講演や高校生による研究発表、シンポジウムを開催。戦跡の保存などに取り組む他団体との連携も広げる考えだ。

松本深志高1年の望月美里さん（16）は、中学時代に訪れた広島平和記念資料館（広島市）で外国人の表情が変わるのを見て「戦争の悲惨さを伝えるのに言語の壁はない。自分も学んで発信したい」と参加を決めた。松本第一高2年の宮入彩さん（17）は戦争映画を見て興味を持ったとし、「実際の特攻隊や戦争がどうだったのか調べ、平和について考えたい」と話した。

4月中旬に会のホームページを立ち上げ、上原の情報や会の活動を発信していく。今後、活動資金の確保のためにクラウドファンディングを始める予定だ。